

中村公園 管理運営方針

パークマネジメントプラン

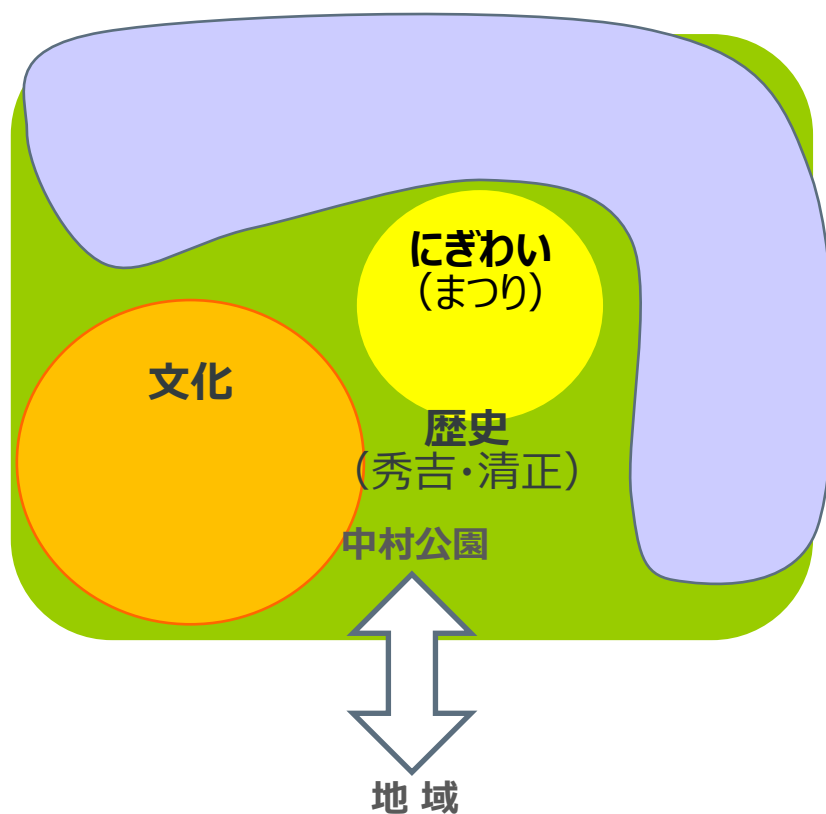
◆公園の特性を生かした公園経営の推進◆

平成 27 年 11 月

中村公園をめざす公園像

地域が誇る歴史と文化を引き継ぐ公園

- ・ 秀吉・清正を中心とした歴史と地域文化の拠点としての公園。
- ・ 歴史とともに育まれた緑豊かな公園。
- ・ 歴史・文化の要素が融合したにぎわいの場として利用される公園。



目次

パークマネジメントプラン 基本事項	1
1.公園の概要	
1-1.中村公園の概要	2
(1) 概要	2
(2) 行政計画上の位置づけおよび指定等	4
1-2.沿革	9
1-3.立地環境	11
(1) 自然状況	11
(2) 周辺状況	11
1-4.整備時の方針および内容	14
(1) 整備当初の基本方針	14
1-5.施設状況	16
(1) 施設概要	16
(2) 利用時間および料金	20
(3) 景観	21
1-6.利用状況	22
(1) 利用実績	22
(2) 主な行事	22
(3) 利用者の意見	24
(4) 利用・運営上の課題	25
(5) 協働	26
1-7.公園の基本的な性格・役割	27
(1) 特長の分析	27
(2) 公園経営の視点から見た現況評価	28
2.めざすべき姿と取り組みの方針	
2-1.公園がめざすべき姿	29
(1) めざす公園像	29
(2) 中村公園のイメージ	29
2-2.取り組みの方針	30
(1) 公園経営の目標設定	30
(2) ゾーン別特性	31
(3) 維持管理の方針	32
(4) 景観形成の方針	32
(5) 運営管理の方針	32
(6) 連携・協働の方針	33
(7) 改修・再整備の方針	33
(8) 災害対応の方針	33

パークマネジメントプラン 基本事項

公園管理運営方針（パークマネジメントプラン）は、平成 24 年 6 月に公表された「公園経営基本方針」及び、平成 25 年 7 月に公表された「公園経営事業展開プラン」に基づき、今後 10 年程度を計画期間として公園の管理運営の方針等を定めるものです。

この方針では、中村公園の性格、役割、立地条件や公園としてのあゆみ、利用者の動向などを踏まえて、めざす公園像を設定し、その実現にあたっての取り組みの方針を定めました。

管理者、利用者、事業者等は、このプランで示す各方針に即して、本公園における管理運営や利活用の促進を、それぞれの立場で行っていくものとします。

なお、本方針については、マネジメントサイクルで行う評価の結果や、周辺の都市基盤整備状況、技術動向、財政見通しなど社会経済情勢の変化等により対応が必要となった場合には、適宜見直しを行っていくものとします。

「名古屋市の公園経営」とは…

従来の行政主導による維持管理中心の公園管理から脱却し、利用者志向、規制緩和等による市民・事業者の参画の拡大、多様な資金調達とサービスへの還元、経営改善手法の導入など、公園の利活用の発想により公園の経営資源を最大限に活用していく新たな管理運営の考え方です。

名古屋市においては、市民ニーズを考慮した公園経営を第一とし、公園を「市民の資産」としてとらえ、多くの人々の関わりの中で、市民全体が公園経営の成果を享受できるように「管理する資産」から「経営する資産」へと公園の管理運営のあり方を大きく変革していくものです。

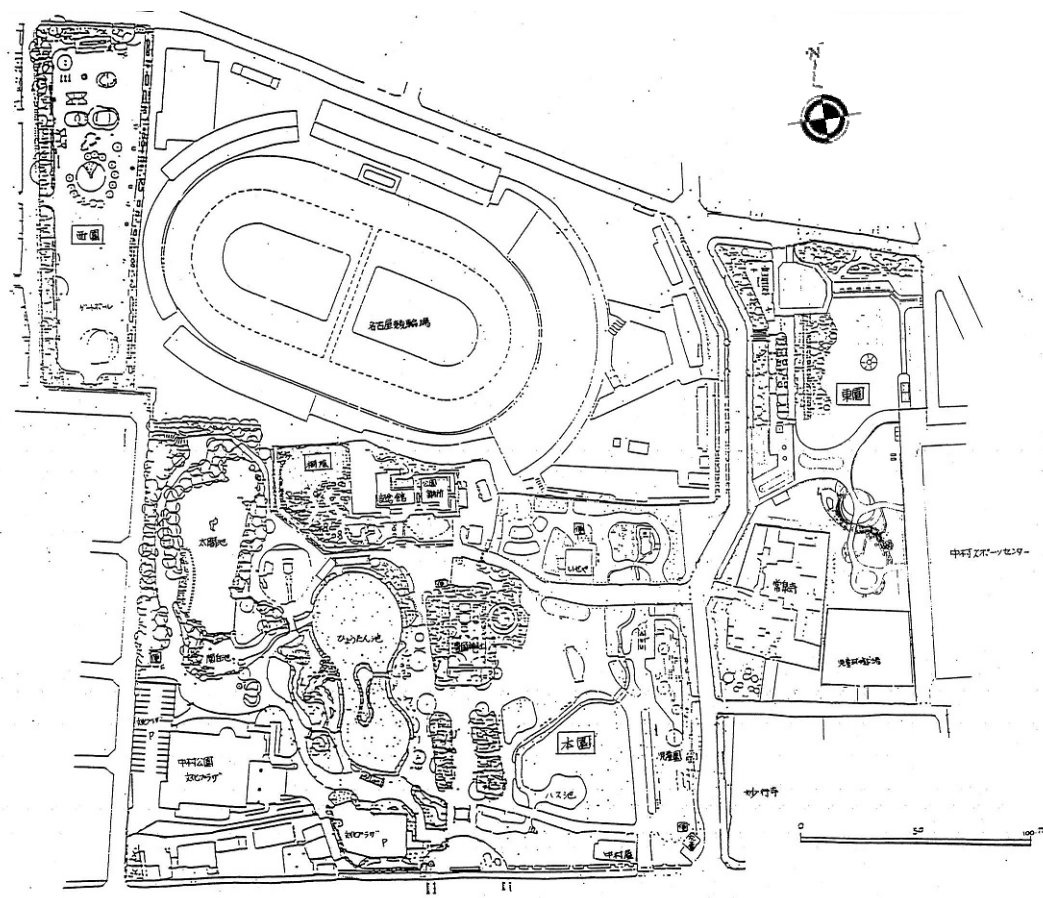


1.公園の概要

1-1.中村公園の概要

(1) 概要

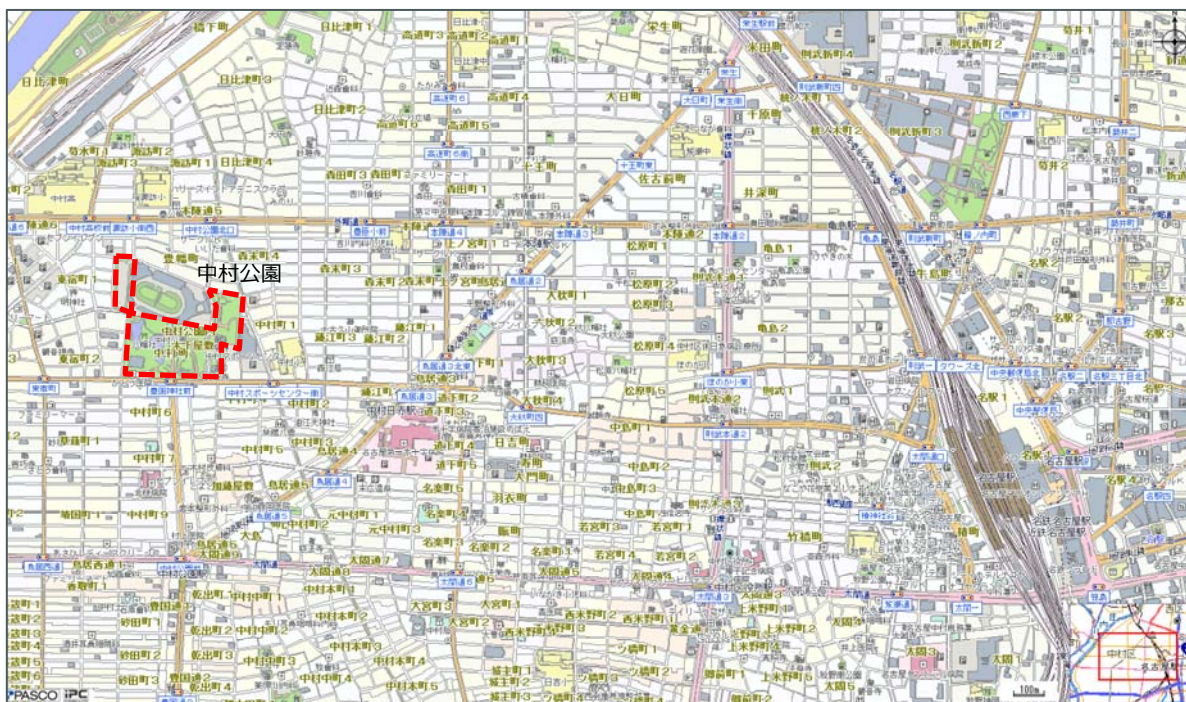
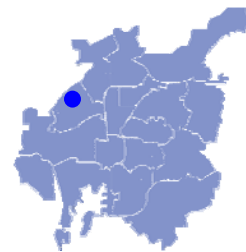
開園年度	大正 12 年
都市公園法による設置	昭和 31 年 10 月 15 日
公園面積	6. 27ha
所在地	名古屋市中村区東宿町 1 丁目、 中村町字木下屋敷、字高畑、字茶ノ木、字侍屋、字河原
公園種別	地区公園
都市計画決定	年度 昭和 22 年 5 月 6 日 番号 5・5・2 号 面積 11. 2ha



中村公園平面図

【位置】

名古屋駅より西へ約 2.5 k m に位置している。



位置図

【交通】

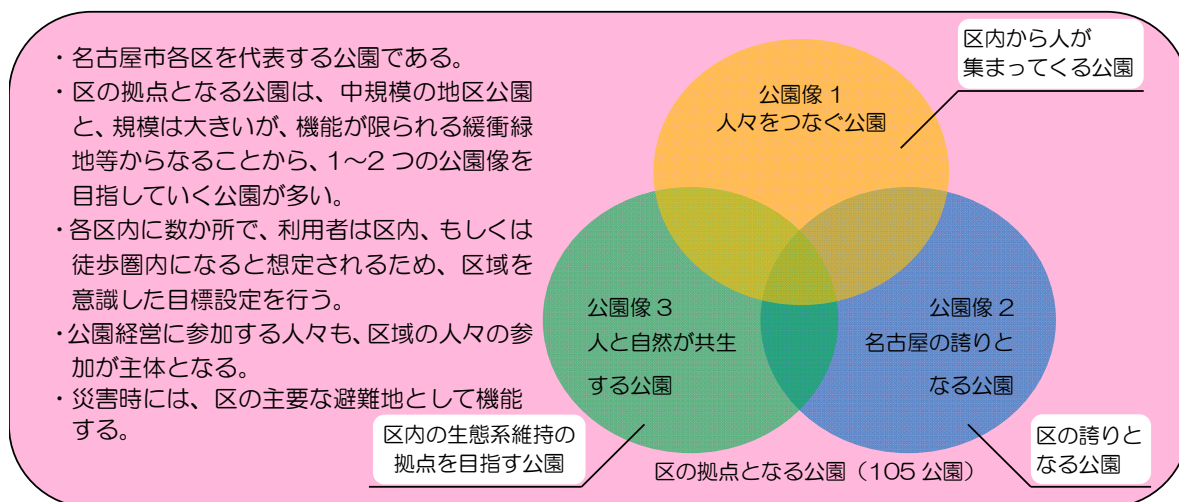
地下鉄東山線 「中村公園」駅 3 番出口より徒歩 8 分
市バス 11 系統 「豊国神社」

(2) 行政計画上の位置づけおよび指定等

■ 区の拠点となる公園

事業展開プランの中で、公園の面積規模や公園利用者の広がり considering 3つに分類された公園体系のうち、「区の拠点となる公園」として位置づけられている。「区の拠点となる公園」とは、各区でおよそ数か所ある地区公園及び河川敷緑地などを指している。

【区の拠点となる公園】



※名古屋市公園経営事業展開プラン（H25.7）

■ 広域避難場所

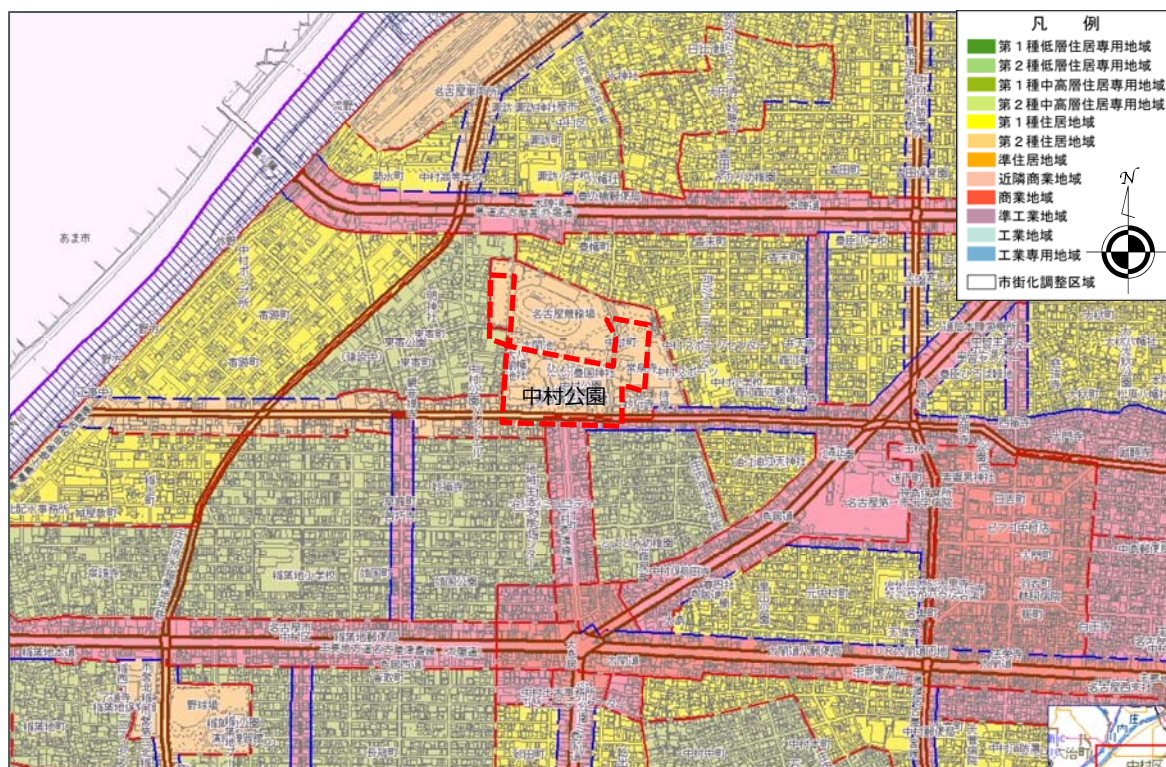
名古屋市地域防災計画の中で、中村公園は広域避難場所として指定されている。広域避難場所とは、主として地震火災が延焼拡大した場合に、周辺地域からの避難者を収容し、避難者の生命を保護するための場所である。



避難所マップ

■用途地域

公園は第2種住居地域、周辺は第1種住居地域または第2種中高層住居専用地域となっている。



用途地域図

■ 史跡散策路

中村区の史跡散策路の「日比津・大秋の里散策コース」は、中村公園周辺を廻るルートとなっている。

史跡散策路 日比津・大秋の里散策コース

中村区

往古の往来をしのぶ、細い道、落ち着いた家並の中を由緒ある神社・仏閣をめぐる。
安産祈願の穴生社、歯痛を治す白山神社から大円寺のクロマツを愛で、惣兵衛川筋を香りの園に、花の香に浮世を忘れ、昔日を思う。清正ゆかりの清正公通をたどり、光明寺から大秋の里へ。



コース順路 (全長約4.6km)

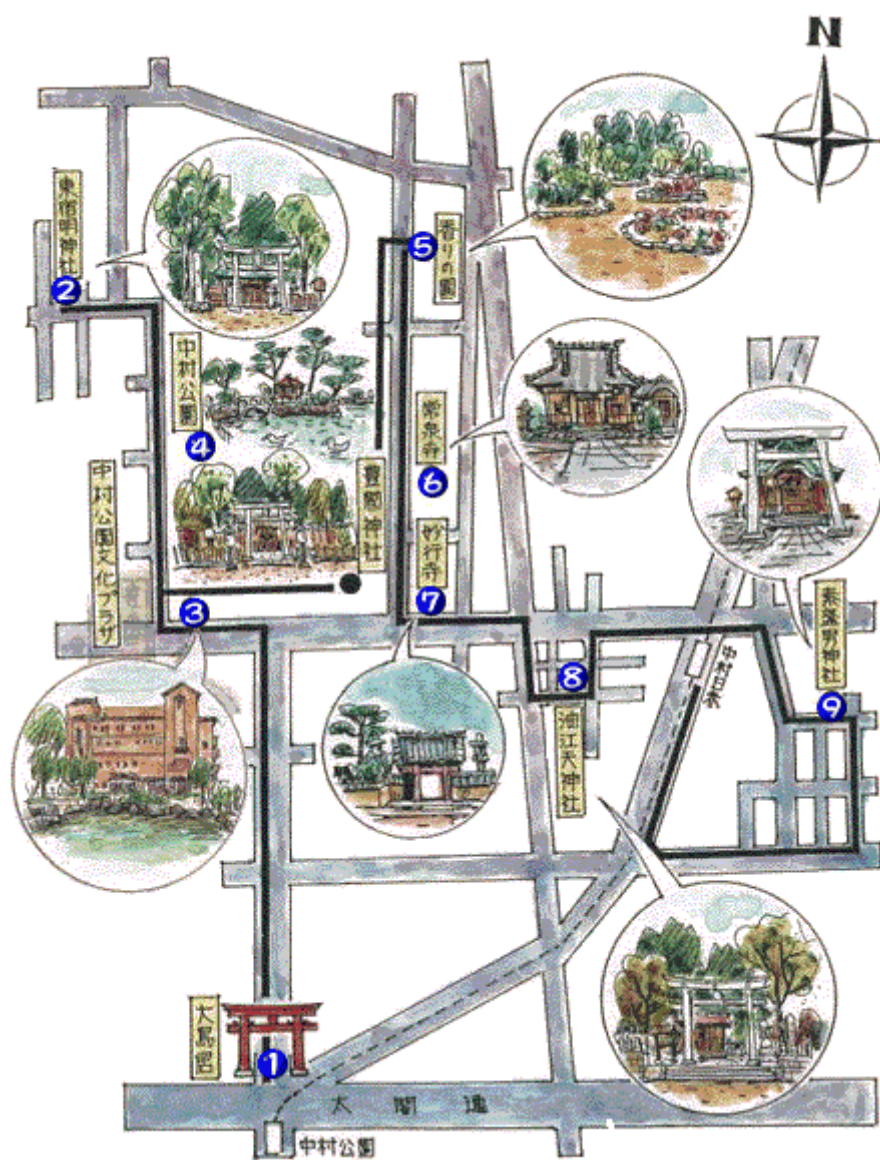
- 栄生駅
- ↓ 250m
- ① 穴生社
- ↓ 130m
- ② 菊泉寺
- ↓ 200m
- ③ 八幡社
- ↓ 350m
- ④ 土江神社
- ↓ 670m
- ⑤ 白山神社
- ↓ 300m
- ⑥ 定徳寺
- ↓ 280m
- ⑦ 妙聴寺
- ↓ 90m
- ⑧ 大円寺
- ↓ 630m
- ⑨ 香りの園
- ↓ 880m
- ⑩ 光明寺
- ↓ 400m
- ⑪ 松原八幡社
- ↓ 190m
- ⑫ 大秋八幡社
- ↓ 230m
- 本陣駅

● 交通ルールを守って、事故にあわないよう十分注意しましょう。

史跡散策路マップ

■ 史跡散策路

中村区の史跡ルートは、中村公園周辺を中心に廻るルートとなっている。



中村史跡ルート

1-2.沿革

明治 16 年 (1883 年) 6 月	県令 国貞廉平に対し、豊国神社創建願を提出（発起人：上中村戸長 木村喜代二ら地元諸氏）
7 月	豊国神社創建願が許可される。
明治 18 年 (1885 年) 7 月	豊国神社正殿竣工（豊国神社境内域 400 坪）
明治 31 年 (1898 年)	豊太閤三百年祭を機会として、県議吉田高朗が中心となり、「中村旧跡保存会」が設立
明治 33 年 (1900 年)	「豊国神社と同境内を全部公園とすべき」と県会へ建議 「豊国会」が組織される。 県会において、沖知事が土地寄付採納公園として保存の件を提出（豊太閤遺跡保存公園とするもの）
明治 34 年 (1901 年) 1 月	中村公園敷地を中村旧跡保存会より愛知県へ寄附
11 月	県会において中村公園築造予算案の可決 公園の築造、敷地拡張工事に着手（ひょうたん池築造） 約 5,000 坪（約 16,500 m ² ）の「中村公園」として県民に開放 この時、愛知県の所管となる。
明治 43 年 (1910 年)	豊国組合の組織 拡張工事が進み約 2 倍の敷地となる (31,600 m ² 9,576 坪) 記念館、料理店、茶屋等の完成
11 月 18 日	皇太子（後の大正天皇）が豊国神社参拝後、記念館で休憩され、松（クロマツ）を御手植えされる。
大正 6 年 (1917 年)	本多静六が設計（全区域を六区に分け、神苑、日本式庭園、運動場、花壇、記念館、自然園等）
大正 7 年 (1918 年)	改良工事着手
大正 9 年 (1920 年)	改良工事竣工
大正 12 年 (1923 年) 4 月 1 日	愛知県より名古屋市へ移管（面積 9,584 坪、約 31,627 m ² ） 運動場竣工
昭和 5 年 (1930 年) 1 月 1 日	豊国神社奉獻大鳥居の竣工式（当時、日本一の大きさ）
昭和 10 年 (1935 年)	15,322 坪（約 50,562 m ² ）の敷地買収拡張
昭和 11 年 (1936 年) 10 月 8 日	拡張工事着工
昭和 14 年 (1939 年) 5 月 1 日	拡張工事竣工

昭和 16 年 (1941 年)	軍需用金属として、常泉寺の豊太閤ブロンズ立像を供出
昭和 22 年 (1947 年)	都市計画決定 (136,000 m ²)
昭和 23 年 (1948 年)	運動場・テニスコートおよびその周辺を含め 6,000 坪の研究農場が設置される。(昭和 24 年 4 月に廃止)
昭和 24 年 (1949 年) 10 月	競輪場完成 40,333 m ² (ボート池は競輪場走路築造のための用土掘削跡)
昭和 25 年 (1950 年)	西の児童園敷地拡張
昭和 27 年 (1952 年) 3 月 21 日	中村公園振興会が設立 ボート池で貸しボート (10 隻) の営業を開始
8 月	ボート営業の益金と名古屋競輪場助成金により夏まつりを開催
昭和 29 年 (1954 年) 10 月 1 日	中村記念館結婚式場の営業開始
昭和 31 年 (1956 年)	都市公園として設置 (競輪場、豊国神社は公園区域から除外) 洋風園地 (東側) 整備 顕彰館敷地買収
昭和 32 年 (1957 年)	東園竣工 豊頌軒、市内祖父町渡辺家より移築
昭和 34 年 (1959 年) 9 月 26 日	伊勢湾台風の猛威により、約 1,300 本の樹木が倒伏・傾斜し、中でも松樹約 200 本が根こそぎ倒伏し、園内の様相が一変
昭和 42 年 (1967 年)	顕彰館、結婚式場開館
昭和 45 年 (1970 年)	賞果亭、聖徳寺より移築
昭和 47 年 (1972 年)	スポーツセンター竣工
昭和 51 年 (1976 年)	香りの園、トリムコース竣工
昭和 58 年 (1983 年)	日吉丸ブロンズ像竣工
昭和 59 年 (1984 年)	参道緑道整備工事着工
昭和 60 年 (1985 年)	参道緑道整備同工事竣工
昭和 63 年 (1988 年)	「中村公園再整備計画」 中村ライオンズクラブより「桐蔭茶席」が寄付される
平成元年	太閤池 (旧ボート池) の改修
平成 3 年	中村文化プラザが開館

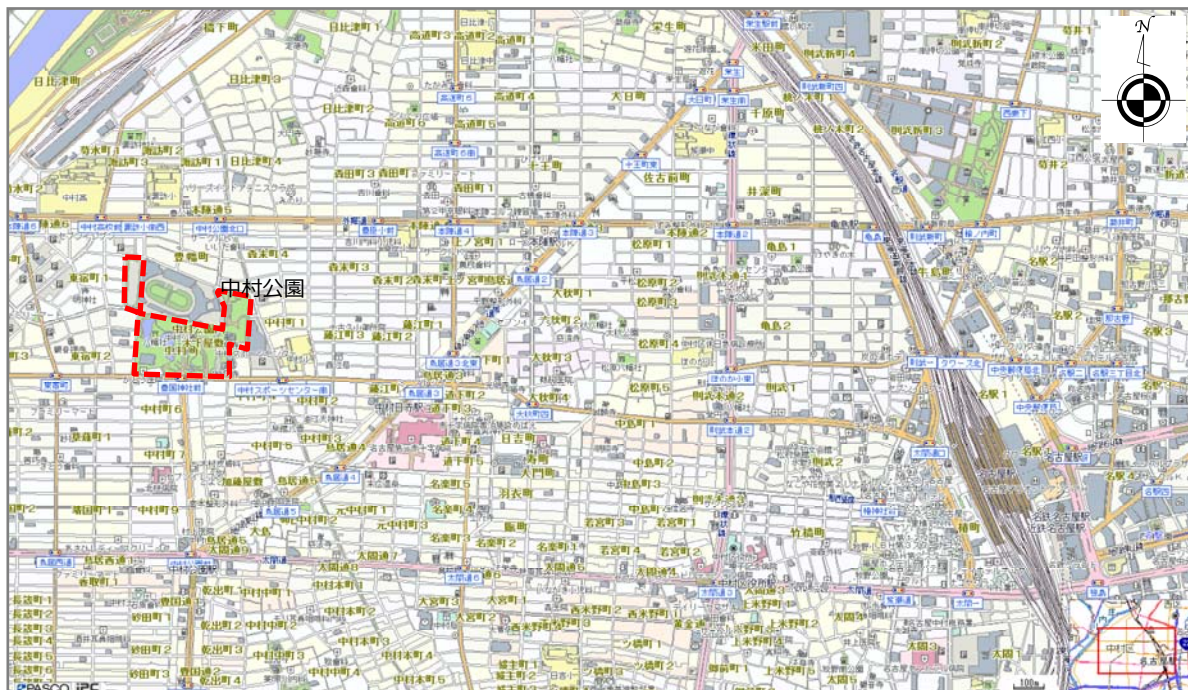
1-3.立地環境

(1) 自然状況

中村公園は、明治時代から公園として位置づけられ整備されてきたため、園内の樹木は非常に大きく成長し、都市の中において緑の塊を形成している。太閤池周辺のサクラやひょうたん池周辺のフジは毎年多くの来園者を楽しませている。豊国神社や八幡社周辺は常緑樹が多く、神社の風格を演出している。また公園周辺では、参道にソメイヨシノとクロマツ、公園南の東西道路にサルスベリ、公園東の道路にハナミズキが街路樹として植えられている。

(2) 周辺状況

豊国神社、八幡社のほか、中村公園周辺には妙行寺、常泉寺など歴史のある寺社がある。文化施設として中村図書館、中村文化小劇場、秀吉清正記念館が入った中村公園文化プラザが公園内にあり、スポーツ施設として中村スポーツセンターや名古屋競輪場が隣接している。公園南の参道には、赤鳥居があり、ランドマークとして存在感を示している。また周辺は住宅地が取り囲み、中村公園は、地域の歴史ある公園として親しまれている。



周辺状況図



航空写真

【豊国神社】

祭神は豊臣秀吉であり、明治 18 年（1885 年）8 月、中村の有志が発起し、時の県令国貞廉平の認可を経て、公園内秀吉誕生地の両隣の地に創建された。

【八幡社】

祭神は応神天皇であり、加藤清正公が出陣の際に祈願した。

【中村スポーツセンター】

平成 6 年 7 月に開館し、指定管理者により運営されている。2 つの競技場、軽運動室、弓道練習場、トレーニング室のほか、温水プール（練習用、学童用、幼児用）も備えている。また、アリーナ会議室（56 m² 36 名）、第 1～第 3 会議室（約 40 m² 24 名）がある。



構造 : 鉄骨鉄筋コンクリート造地上 3 階・地下 1 階

敷地面積：10,365.44 m²

建築面積：5,302.08 m² 延床面積：9,796.58 m²

駐車台数（有料）：129 台、車椅子使用者用 3 台

【名古屋競輪場】

名古屋競輪場は昭和 24 年（1949 年）に開設された。当初は中日球場にて組立バンクによる競輪を開催する構想があったものの、名古屋市財政局からの強い要望があり、最終的には新規で競輪場を建設することになり、現在地の名古屋市が土地を所有する中村公園北側に造成された。



施設所有および主催は名古屋競輪組合（愛知県と名古屋市による一部事務組合）。競技実施は JKA 競輪競技実施事業本部中日本地区本部。

【妙行寺】

日蓮宗、山号は正悦山、本尊法華三宝。はじめは真言宗の本行寺という寺であったが、永仁 2 年日像菩薩が改宗し、天文年間に日勢上人が再興したと伝えられる。清正堂には肥後熊本本妙寺より伝わる「清正の木造」が安置され、妙行寺には県指定の文化財である「絹本著色一尊四菩薩画像」と「絹本著色加藤清正画像」が保存されている。昭和 35 年には、清正のブロンズ像が設置された。

【常泉寺】

日蓮宗、山号は太閤山。太閤堂には豊公唐冠束帯の木造が安置されている。境内には秀吉誕生の時に使われたと伝えられている豊公産湯の井と、秀吉御手植えの柵（現在のものは何代目かの植え継ぎ）がある。本堂は昭和 58 年 4 月 7 日夜の不審火により全焼したが、翌年、早速再建の目処が立ち復興が始まった。

【赤鳥居】

中村公園の中心、豊国神社に至る参道にそびえる朱塗りの鳥居は高さ 24m で昭和 4 年、この地が名古屋市に合併されたのを記念して建てられたものである。

1-4.整備時の方針および内容

(1) 整備当初の基本方針

《大正 6 年 中村公園改良（設計：本多静六）》

地形は原形に即してほぼ平坦で、豊国神社区域の荘厳な神苑地区、運動場、庭球場、遊具のある遊戯広場地区、大正天皇御手植松を中心とした花壇地区、瓢箪池、流れ、蓮池を巡る回遊林泉庭園地区、記念館、料理店を中心とした施設地区、築山と樹林の繁茂する自然園地区の 6 つのゾーンで構成され、現在の本園区域の原形が整備された。



《昭和 11 年 中村公園第二次拡張》

- ・ 参道を 8 間から 13 間半に拡張し、両側にマツとサクラを交互に植栽した。
- ・ 西部の拡張部は、ゆったりした樹林帯として整備。
- ・ 北部び拡張部は、西側から豊国神社拡張敷地 3,000 坪、運動場 3,200 坪、野球場 1,995 坪、テニスコート 2 面 441 坪の施設を整備。
- ・ 常泉寺東側の拡張部は、苗圃として整備。



中村公園平面図（昭和 14 年）

《昭和 61 年度 中村公園基本計画・基本設計（名古屋市農政緑地局）》

基本方針

- 豊臣秀吉の生誕地として意味付けた秀吉の人を表す
- 名古屋市の史跡・観光の地としてふさわしい公園づくり
- 中村公園のたどった歴史を活かした新しい公園
- 地域に密着した利用度の高い公園

【本園】

茶席などの施設や豊国神社などからなる秀吉顕彰ゾーンとし、秀吉の幼少時から天下人となるまでの題材等をモチーフに整備する。茶庭の整備にあたり、外周土塁は、秀吉の持つ力強さの象徴として大きな岩組と矢来垣で囲み、その中に既存の植栽を生かすものとする。

太閤池（旧ボート池）は、賤ヶ岳の合戦の舞台である琵琶湖をモチーフにしながら多様な護岸整備を行い、新たな魅力づくりとして様々な種類の桜を植栽する。

【西園】

遊戯ゾーンとして、児童園やゲートボール広場など地域住民へのサービス施設を整備する。

【東園】

花と光のゾーンとして、花の名所づくりを行う。

1-5.施設状況

(1) 施設概要

中村公園は、本園、東園、西園に区分されている。

■本園

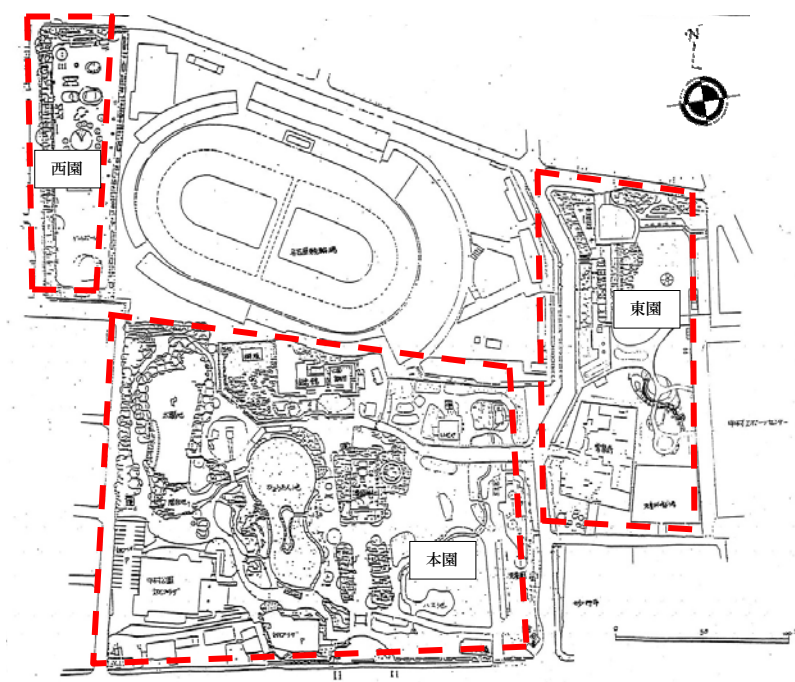
豊国神社とその参道を中心に、木下藪、野外ステージと広場、子供の広場、流れと群像（日吉丸となかまたち）、健康増進コーナー、大正天皇御手植松と牡丹園、瓢箪池と築山、太閤池等がある。さらに建築施設としては、記念館、売店 2 軒、中村公園プラザ、茶席豊頌軒、桐蔭、管果亭、便所 4 棟が設置されている。瓢箪池北側の藤棚は、公園創設当時から有名で紫藤は花房が 1m にも及び広く親しまれている。また、クロマツ、クス、シイ等が生い茂り、森厳な雰囲気漂わせている。

■東園

妙行寺、常泉寺に隣接し、香りの園、洋風花壇、大ケヤキ並木、児童球戯場があり、藤棚、便所等が設置され、中村スポーツセンターも設置されている。

■西園

第二児童園として整備され、ゲートボール場も併設されている。



中村公園平面図

【施設概要】

1) 桐蔭茶席

昭和 63 年、中村公園再整備計画に合わせて茶庭整備が行われ、同時に中村ライオンズクラブより寄贈された。木造瓦および銅板葺き平屋。和室 2 室（6 畳、8 畳、水屋、トイレ）、広間（立札席）1 室

庭園面積：2,100 m²



2) 豊頌軒

昭和 31 年 9 月 28 日付で茶席豊頌軒の建築申請が豊国神社信徒総代から出され、竣工後直ちに市へ寄付することを条件に許可された。茶席の建築については、昭和 22 年の秀吉 350 年忌の折、記念事業として茶席の建築に他なしと発議されたことと、ある名茶席移築の件とが結びついて実現されることとなった。豊頌軒は、祖父江町の渡辺家より昭和 33 年に移築されたものである。昭和 55 年には、広く市民の教養の場にと名古屋市に寄付され、昭和 60 年に全面改修工事が行われている。



3) 嘗果亭

昭和 41 年 12 月 23 日、茶席 1 か所だけでは多数の人々の使用上困難があり、さらに一席増席することにより茶道本来の使命を果たしたいとの御願書が提出された。しかし、建ぺい率超過の理由で公園内に建築できず、八幡社境内に昭和 45 年、移築が実現した。既に老朽化がすすんでおり、改修費用との兼ね合いから現在は撤去されている。記念館、豊頌軒とならび、秀吉茶席の一翼となり、この年から毎月 18 日に松尾流はじめ 6 流派が担当し豊国神社へ献茶し、各茶席で茶会を催している。

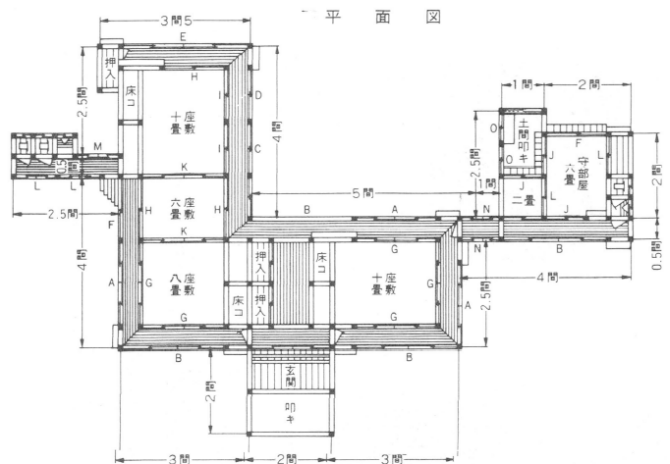
4) 中村公園記念館

中村公園記念館は、関西府県連合共進会が名古屋で開催されるおりに当年が清正公の 300 年忌と重なったため、公園を拡張して記念大祭を執行するのにあわせて、明治 43 年（1910 年）3 月愛知県により木造瓦葺、建坪 76 坪の迎賓館として記念館の建築及びその周辺の造園が行われた。深野知事命名、直筆による門札が掲げられた。



昭和 29 年 10 月、徳川園市民結婚式場が大変な繁昌でとても市民の要望に応じきれないということで中村公園の記念館が姉妹会場として利用されることとなった。記念館の西に結婚式場と花嫁化粧室・写真撮影所を増築し、便所を東（現在地）へ移築し、座敷 4 間を披露宴会場とした。利用者は昭和 30 年 3 月末までの半年間で 620 組（3 月は 176 組）が誕生することとなった。

昭和 38 年、建物の老朽化が著しく、かつ、急ごしらえの式場や付属施設も年数の経過とともに利用者からの不満の声が上がり、屋根の葺き替えを始めとして記念館の全般的な改修工事を行ったが、昭和 42 年には記念館から結婚式会場としての機能は外された。



建設当初記念館間取図

図版 連 1 記念館間取図

5) 中村公園文化プラザ

この地で生まれたと伝わる豊臣秀吉と加藤清正を顕彰する豊清二公顕彰館が昭和 42 年から置かれていたが、平成 3 年に改築、現在の名称に改めた。館内各フロアに中村図書館、秀吉清正記念館、中村文化小劇場が置かれている。

構造：鉄筋コンクリート造り 2 階建
建築面積：1,698.73 m²、



6) 豊清二公顕彰館、秀吉清正記念館

中村公園にゆかりの深い、郷土の英雄豊臣秀吉と戦国時代の武将加藤清正の偉業をしのび、その業績を顕彰することを目的に、昭和 42 年（1967 年）5 月 13 日、中村公園南西角の花屋敷跡地に豊清二公顕彰館が開館した。平成 3 年 5 月 31 日には、中村公園文化プラザ内に「秀吉清正記念館」として開館している。収蔵品は、秀吉・清正の遺品、二公に関する資料、美術品などで、その主要なものは旗本三千石・木下家から購入したものである。秀吉画像具足姿・秀吉着用近習具足・同兜・秀吉および清正自筆書状・豊太閤木像など約 700 点（平成 20 年現在）を収蔵、展示している。

7) 大正天皇御手植の松

明治 43 年 11 月 18 日、大正天皇が皇太子東宮の時、中村公園、豊国神社へ行啓され、クロマツの若木を御手植えされた。現在も壮健で、毎年手入れされ、美しい姿が人目を引いている。

8) 木下藪

古来より木下藪と称し、一丘竹藪（ハチク）で覆われ、豊公誕生地という言い伝えにより除地にして、村民が所有することはなかった。また、その藪中に入ると祟りがあるとして一枝、一竿を侵さず自然のままにしたと伝えられている。大正 3 年 4 月にはすべて枯死したが、翌 4 年 6 月土砂をすべて取り替え、植竹し旧跡を保存し現在に至っている。

9) 児童遊戯場

面積：2,300 m²

10) 健康散策路

気軽に散歩やジョギングのできる園路と健康運動器具が設置されたウォーミングアップコーナーがある。

延長：650m

設置：平成 9 年 10 月

11) 野外ステージ

設置：昭和 54 年 3 月



(2) 利用時間および料金

【中村公園記念館、桐蔭茶席】

受付窓口：中村土木事務所

受付方法：利用3ヶ月前の1日午前9時から先着順
(受付日が休業日の場合は、直後の休業日でない日)

施設休業日：年末年始(12/29～1/3)

利用時間：半日使用 9:00～12:00 または 13:00～16:30

施設名	使用料
中村公園記念館	昼間 1,600 円
	半日 1,100 円
	夜間 2,400 円
桐蔭茶席	昼間 1,600 円
	半日 1,100 円

※中村公園記念館は、当分の間は利用停止。

【駐車場】

中村公園文化プラザ駐車場 300 円／1 回 (ただし 30 分以内は無料)

(3) 景観

【日本庭園内の優れた景観】

- ・ 池周辺は、サクラや紅葉など四季を通じて景色を楽しめる。
- ・ 藤棚は、房がかなり長くなり、非常にきれいである。
- ・ 大正天皇の御手植え松は手入れされ、樹形も美しい。
- ・ 神社も公園の景観に溶け込んでいる。

【公園内から見える周辺の景観】

- ・ 参道から鳥居までの眺め。
- ・ 参道で行われる九の市のにぎわいの様子。

◇ 彫刻

作品名	作家名	設置年	設置場所
日吉丸となかまたち	石黒鏘二	S58.8	

◇ 水景施設

種類	愛称	面積(m ²)	設置年	備考
噴水		153	S38.12	ひょうたん池
滝		60	H4.3	ひょうたん池
流れ		270	H6.3	日吉池、蓮池

◇ 花の名所（樹木類）

- ・ フジ 開花時期 4月下旬～5月上旬



◇ 香りの園

昭和 51 年に中村区の事業の一つとして中村公園の「香りの園」が設置された。園内の一角に芳香性の樹木や草花を集めて、それぞれ季節の移り変わりが楽しめるように造られたもので、名古屋では最初のものであった。平成 17 年に再整備され、1,800 m²、芳香植物等 13 種 約 450 本が植えられている。(平成 26 年 4 月 1 日現在)

1-6.利用状況

(1) 利用実績

桐蔭茶席、中村公園記念館の年間利用実績（平成 23 年度）

昼間利用 101 回、半日利用 15 回 合計 116 回

(2) 主な行事

イベント名	開催時期	期間入園者
太閤花見茶会	4 月初旬	約 3,000 人（H26）
豊国神社太閤まつり	5 月中旬の 2 日間	
中村公園夏まつり	8 月初旬の 3 日間	約 1,000 人（H25）
区民まつり	10 月下旬	
献茶会	毎月 18 日	

その他、中村文化小劇場での各種催事、秀吉清正記念館での展示

【太閤まつり】

毎年 5 月 18 日に中村公園を中心にして、「太閤まつり」が行われている。その際、中央ひょうたん池が野点の主会場となっており、多くの人々でにぎわう。そして豊公にあやかって、還暦に当たる人々が、豊公還暦頭巾をかぶって行列に加わる。また、中村区の文化財である八雲琴が演奏される。八雲琴は水野神社に仕える一色家の人々が、家芸として伝統的に継承しているものである。

【太閤例祭・献茶会】

豊国神社の村上前宮司は、戦前から神職としてこの神社に務めた。終戦になって復員するとき、豊国神社は焼けてもうないものと思っていたが、神社はもとのままで残っていた。荒廃していたのはむしろ人心であった。毎月 18 日に行われる太閤まつりの例祭は、敗戦の虚脱から立ち上がろうとして、地元住民有志によって昭和 23 年から始まった祭りである。市内唯一の献茶会の催しは、参加数も多く、熱田神社、名古屋城の献茶会に比べ、最大規模に行われており、太閤池東の 2 つの茶屋（豊頌軒、桐蔭茶屋）が、その会場として利用されている。

献茶会は、昭和 45 年に始まった。昭和 60 年当時、豊頌軒及び嘗果亭で毎月開催されていた献茶会は名古屋城や熱田神宮での献茶会をしのぐ盛況ぶりで、毎回 300 人ほどの参加者がいたとされる。

豊頌軒と八幡社の西にあった嘗果亭で行われていた軒茶会は、豊頌軒の北側に昭和 45 年に築造された桐蔭茶屋と茶庭の整備により記念館の西側のまとまったエリアで開催できるようになった。記念館が閉鎖されるまでは記念館も利用していたため、現在は若干手狭な状況になっている。

献茶会は、8 月以外の毎月 18 日に行われているが、4 月の献茶会はサクラ会に合わせて特に盛大である。また 5 月の太閤祭では、ひょうたん池で野点が行われるが、茶室及び茶庭とは離れた場所にあり、場所も非常に狭い。

【夏まつり】

昭和 27 年（1952 年）、中村公園振興会の設立後、貸しボートの営業が開始され、この益金と名古屋競輪場助成金でこの年の 8 月に「夏まつり」が開催された。盆踊り、写生会、演芸、花火鑑賞会、映画界などを 10 日間の期間で催し、期間中はボンボリも設置された。

その後、夏まつりは毎年継続され、昭和 34 年に振興会は地元住民に名古屋市関係部局職員も役員に加わり、その年の夏まつりから、改めて第 1 回夏まつりとされた。

昭和 59 年 7 月 1 日に中村公園振興会と名古屋市公園緑地協会の間で事業提携を行い、ボート営業は公園緑地協会に引き継ぎ、その年の「第 26 回中村公園夏まつり」から、名古屋市、中日新聞社、名古屋市公園緑地協会、中村公園振興会の 4 者で共催することとなった。

現在は、8 月初旬の 3 日間、盆踊り、写生会、吹奏楽の夕べ、写真コンテスト、花火鑑賞会等を開催している。

【その他の利用】

- ・ 秀吉や清正などの歴史に興味のある人たちが史跡めぐりに訪れている。
- ・ 近隣の小学校 4 校の 6 年生が社会科見学で訪れる。
- ・ 図書館や文化小劇場があることで、子供たちが中村公園に来る機会が多い。
- ・ 平成 26 年 4 月にご当地キャラクター「ひできよん」が誕生し、行事案内等の広報に活用している。
- ・ 公園北側に隣接する競輪場の客が、公園内の売店を利用したり、太閤池付近から競輪場のスーパービジョンを見たりしている。

(3) 利用者の意見

平成 26 年 2 月、中村公園周辺施設に対してヒアリングを行った。

【意見・要望等】

- ・ 区民の期待が大きく、地元色の強い公園である。
- ・ 歴史、文化施設、スポーツ施設が公園周辺に集まっており、住環境としては非常によい。
- ・ 祭の会場となっており、公園の認知度は高いが、日常的に見ると、公園というより神社の庭というイメージがある。
- ・ 中村文化プラザがあることで、歴史と文化の共存する公園になっている。
- ・ 緑は残してほしいが、もう少し明るくなるとよい。
- ・ 夜は暗く、ホームレスも滞在しているためイメージが良くない。
- ・ 個々の施設が単独で運営しているが、施設同士の交流が増えればそれぞれの施設もさらに活かせるのではないか。
- ・ 寄付ベンチにより新しいベンチが入ったが、トイレも非常に古く、きれいになるとよい。
- ・ 池が澱んでいて、中途半端な状況になっている。どういう池にしたいのか方向性を明確にしたほうがよいのではないか。

公園に関する意見・要望を平成 26 年 10 月 25 日（土）に現地にて聞き取り調査を行った。平日および通常の週末には、利用者はあるものの、まとまった回答数を得るのは困難であるため、調査は中村区民まつりの開催日に当てた。アンケートは、学生から 70 代以上まで幅広い年齢層の 57 名を対象とし、対象者の 6 割は週 1 回以上、中村公園を利用している。（毎日利用しているのは 26%）

【中村公園の良いイメージ】

- ・ 広くて施設が充実している。（遊具、トイレ、池、大鳥居、史跡、神社、図書館、スポーツセンター）
- ・ 夏の花火、まつりなどのイベントがある。
- ・ 花見の屋台のにぎわいが良い。
- ・ 自然（四季）が感じられる。（木が大きく夏場は涼しい、景色・空気が良い、サクラ・フジ・ヒョウタンなど季節の花が咲く）
- ・ 雰囲気が良い。（和のイメージ、昔の風情が感じられる、静か、整備・清掃がされている）
- ・ 歴史がある。
- ・ 神社と公園の一体感がある。
- ・ 池に魚や亀がいる。

【中村公園のマイナスイメージ】

- ・ 競輪場があり、治安の悪いイメージが残っている。開催日は子供だけで遊びに行かせにくい。
- ・ 重く、暗い雰囲気とする。

【要望等】

- ・ 市内全域に宣伝し、歴史を紹介してほしい。
- ・ 自然を維持してほしい。
- ・ 照明を増やして、安全に利用できるようにしてほしい
- ・ 現在地が分かる案内看板があるとよい。
- ・ 車いすをひきやすい舗装にしてほしい。
- ・ 食事ができる店やカフェがあるとよい。

平成 22 年に行われたネット・モニターアンケートによると、中村公園は「(市内で)好きな公園」第 11 位となっており、中村公園が好きな理由として以下が挙げられている。

【中村公園が好きな理由】

- ・ 夏には花火があり、大きな公園とは違って季節が凝縮されている感じがする。
- ・ 近くに歴史のある寺などがあり、環境が大変よい。
- ・ 豊臣秀吉公の生誕の地である。
- ・ 子どもの頃から親しんでいる公園である。
- ・ 水辺にベンチがあり、のんびりできる。
- ・ 豊国神社、図書館、池や自然など四季を楽しみながらいろいろな楽しみがある。

(4) 利用・運営上の課題

- ・ 家庭ごみが頻繁に捨てられている。
- ・ 火気厳禁となっているがバーベキューを行い、地域の来園者が注意してもやめない。
- ・ 太閤池付近から競輪場のスーパービジョンが見えるため、競輪客が集まり、その他の利用者の通行の妨げとなっている。
- ・ ホームレスの荷物が数年前から置かれている箇所がある。
- ・ 駐車場のゲート付近の幅が狭く、大きい車が駐車しにくい。

(5) 協働

■ ボランティア

【活動状況】

- ・ グラウンドゴルフの後、清掃活動を行っている。
- ・ 清掃活動を中心に花壇づくりなどに取り組んでいる。

【ボランティアの意見】

平成 27 年 2 月に、中村公園愛護会（2 会）にアンケート調査を行った。

1) 中村公園の魅力について

- ・ 広い敷地の中の整備された園路で森林浴ができる。
- ・ 都市部でありながら緑豊かな公園でウォーキングが楽しめる。

2) 望まれる公園像について

- ・ 子どもが遊んでいるそばに競輪場がある環境が良くないと感じる。
- ・ 池の水がもう少し綺麗だとよいと思う。
- ・ 東公園の「香りの園」も荒れ果ててしまっているので、東西の公園にもっと草花を植えて、皆が見て楽しめるようにしてほしい。苗を用意すればボランティアで植えることができる。
- ・ 若い人たちが集まるような文化施設をつくり、中村公園を中心としたまちづくりができるとよい。

【ガイドボランティアへの支援】

- ・ 秀吉清正記念館が、パネルの貸し出しをしている。
- ・ 要請がある場合は、養成講座での講師をしている。

■ その他の団体との協働

- ・ 周辺施設は、公園で行われる各種イベントに参画している。
- ・ 中村公園振興会を通じて関係施設のつながりがある。
- ・ 中村まちあるきマイスターの会がマップ作成やガイドツアーを行っている。
- ・ 自然観察マイスターの活動で、ひょうたんや水仙を植えている。
- ・ なごやかベンチ、まごころ遊具の寄付がある。

1-7.公園の基本的な性格・役割

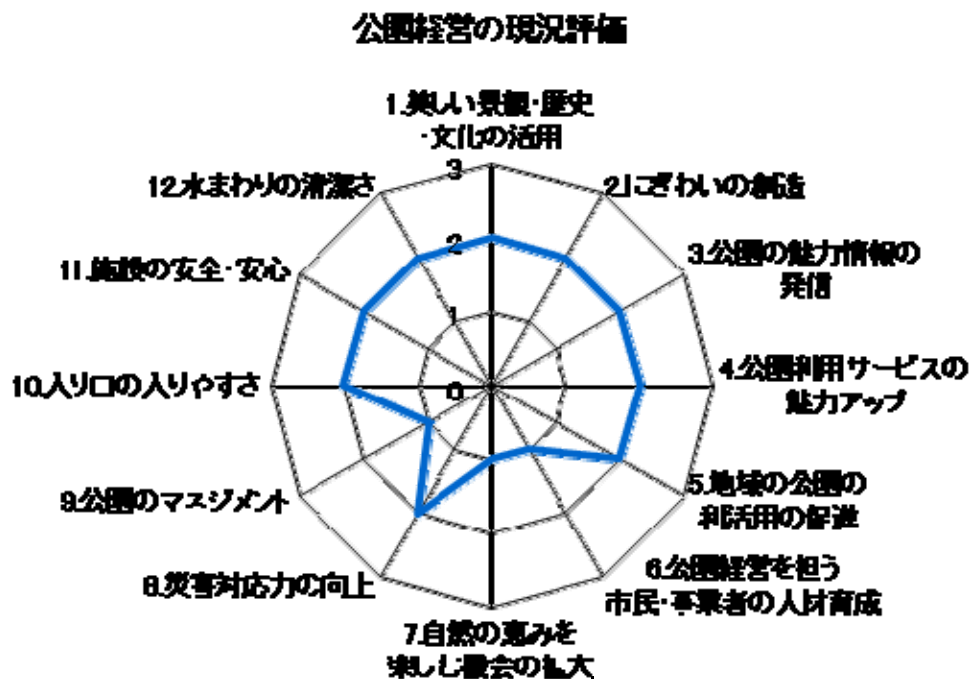
(1) 特長の分析

分析ポイント

歴史・文化	市内で最も古い公園である。 豊臣秀吉生誕の地とされており、歴史のある公園である。 皇太子（後の大正天皇）が行啓の際に立ち寄られた迎賓館施設（中村公園記念館）が残されており、希少な明治期の公共木造建築物である。
景観	池のある風景が利用者に好まれている。
にぎわい	太閤祭り、夏まつり、区民まつり等の季節のイベントや毎月の献茶会などが行われている。
地域の庭	フジやサクラ等、季節の植物が親しまれている。
自然の恵み	古くから公園に植栽されている多くの巨木が緑陰をつくっている。
遊具	遊具のある児童園がある。
スポーツ施設	中村スポーツセンターが隣接している。
災害対応力	広域避難場所に指定されている。
活動団体	中村公園振興会、中村公園愛護会のほか、中村まち歩きマイスターの会、中村自然観察マイスターの会などの活動の場となっている。 周辺の学区や企業、大学による清掃等のボランティア活動が積極的に行われている。
民間活力導入状況	自販機の設置、物販・飲食あり。

(2) 公園経営の視点から見た現況評価

公園経営の現況評価	
評価基準	
評価0	—
評価1	部分的に不足している
評価2	標準的なレベルに達している
評価3	積極的に取り組んでいる、高い評価を得ている



- ・ 豊臣秀吉、加藤清正のゆかりの地として、地域の誇りとなっている。
- ・ 古くからの巨木があり、緑豊かな公園である。
- ・ 神社を中心とした和のしつらえの公園である。
- ・ 都心に近く、歴史資産、文化施設、スポーツ施設のある公園として居住環境としての魅力が高い。
- ・ 競輪場が隣接していることにより、一部のエリアで子供たちが遊ぶのにふさわしくない雰囲気となることがある。

2.めざすべき姿と取り組みの方針

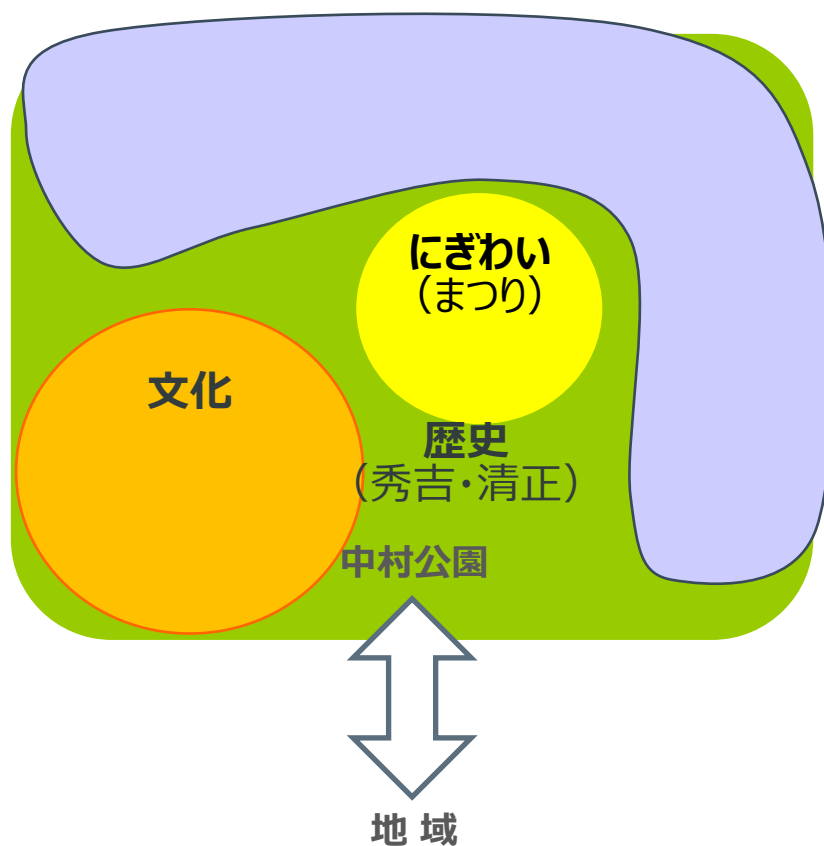
2-1.公園がめざすべき姿

(1) めざす公園像

地域が誇る歴史と文化を引き継ぐ公園

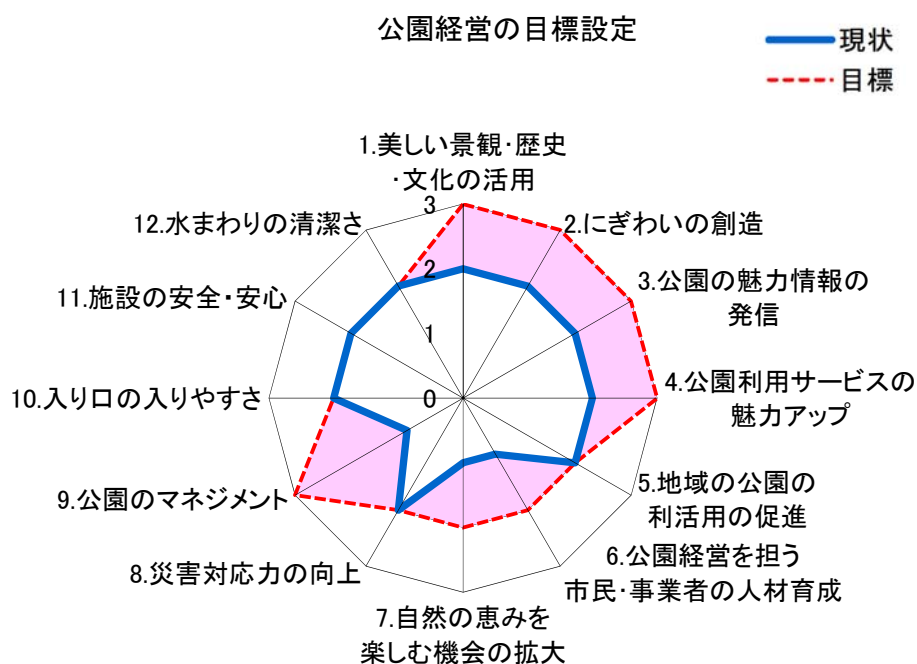
- ・秀吉・清正を中心とした歴史と地域文化の拠点としての公園。
- ・歴史とともに育まれた緑豊かな公園。
- ・歴史・文化の要素が融合したにぎわいの場として利用される公園。

(2) 中村公園のイメージ



2-2.取り組みの方針

(1) 公園経営の目標設定



めざす公園像に取り組むための方針に沿って公園経営の目標を設定し、今後 10 年間に重点的に取り組む項目は、下表のとおりである。

めざす公園像のための取り組み項目 めざす公園像のための取り組み方針	景観形成		運営管理				連携協働			維持管理		
	1	10	2	3	7	9	4	5	6	8	11	12
秀吉・清正を中心とした歴史と地域文化の拠点としての公園	○											
歴史とともに育まれた緑豊かな公園				○								
歴史・文化・遊びの要素が融合したにぎわいの場として利用される公園			○			○	○					

また、平成 28 年 4 月からは指定管理者による管理運営を予定しており、公園経営的視点に立った公園の管理を行うとともに、利用者や近隣住民の声を大切にしながら、安全・安心や環境への取組み等にも考慮して、効果的・効率的な管理運営を行う。

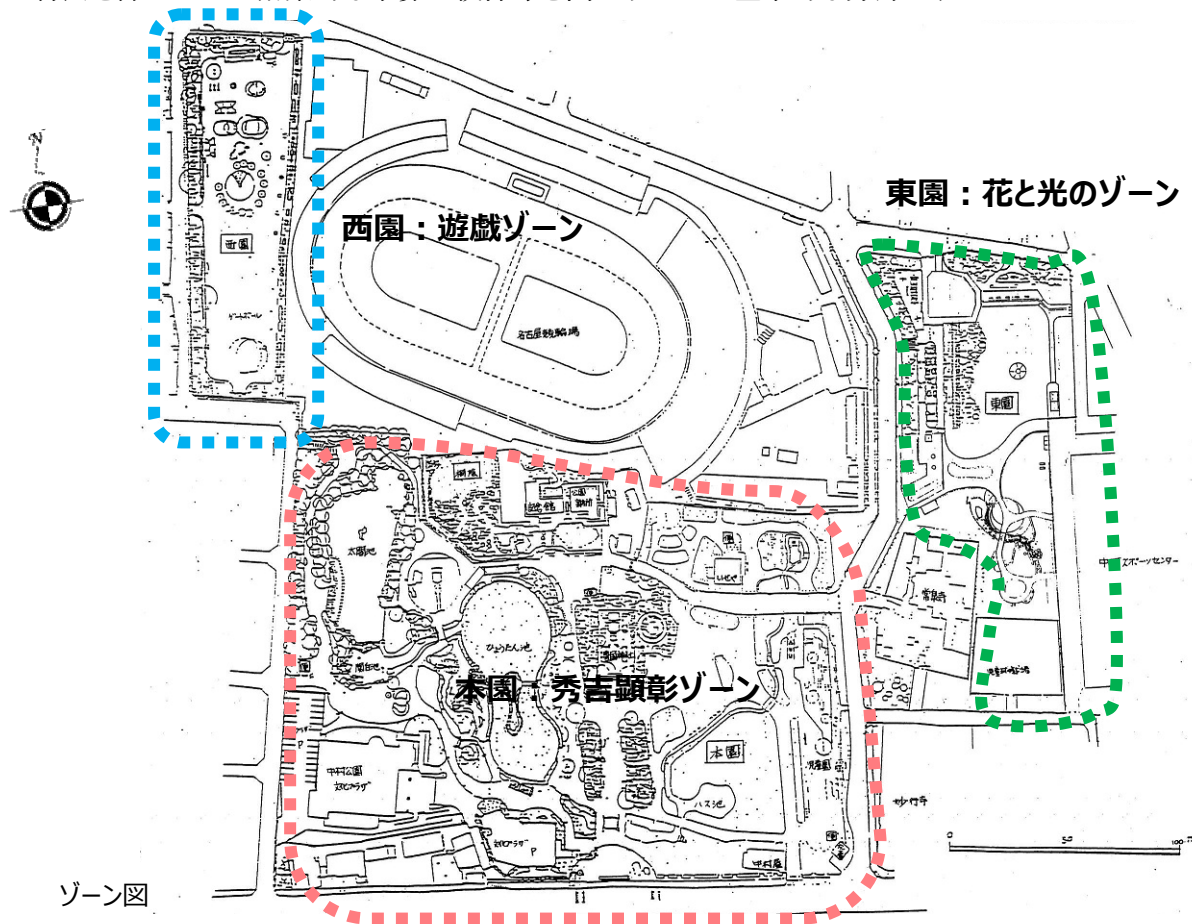
中村公園では、都市公園を市民との協働等により良好に保護・保全するとともに、自然と親しむ場、自然とのふれあい活動に参加する場、花を多く取り入れた散策休養の場、およびレクリエーションを楽しむ場など、多様な市民ニーズに応える施設として管理運営を行う。

● 指定管理者との関係

指定管理者が管理している公園については、以下のことを踏まえつつ、指定管理者の創意工夫による管理を行う。

(2) ゾーン別特性

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくために、園内の各ゾーンについて現況等も踏まえ機能・目的・自然的環境等により類型化し、ゾーンごとの方針を定め、各ゾーンの特長を際立たせて効果的な予算の執行等を図るうえでの基本的な方針とする。



【本園：秀吉顕彰ゾーン】

本園は、豊国神社、秀吉生誕地などを含み、秀吉顕彰ゾーンとして位置づけられる。そのうち東側は、秀吉の「幼少ゾーン」として、秀吉生誕地・木下藪と伝えられている竹藪や日吉丸像等のあるエリアである。また、本園西側は秀吉の「完成期ゾーン」として、秀吉の人柄、茶の湯、能、歌などに造詣の深い風雅を演出する琵琶湖をモチーフとした池、茶室を中心とした庭などのあるエリアとなっている。中村公園の基礎となる秀吉・清正の歴史を伝える品格のあるエリアとする。

【西園：遊戯ゾーン】

地域住民が気軽に利用できるエリアとして、遊戯施設やゲートボール場が整備されており、安全で快適な利用ができる維持管理が必要なエリアである。

【東園：花と光のゾーン】

昭和 51 年には香りの園が設置されるなど、花を中心とした四季を楽しむエリアであるが、現在は植栽の維持管理が困難な状況である。遊具が設置されており、地域の子供たちの遊び場にもなっており、明るいイメージを創り出すエリアとする。

(3) 維持管理の方針

園地や植物の管理については、当初の植栽意図を踏まえ、各植物の特性に配慮したうえで、適正に持続・育成するよう必要な管理を行う。特にサクラやフジについては人気が高く、毎年楽しんでいただけるような栽培管理に努める。

施設や設備は、利用者が快適かつ安全に利用できるよう、各種施設の位置、機能、特性を十分に把握したうえで、常に清潔に保ち、機能を正常に保持するため、各施設に応じた年間管理計画を立て、点検・管理を行う。

周辺地域との連携、市民・企業等とのパートナーシップを推進し、参加型で効率的な維持管理をめざす。

(4) 景観形成の方針

市民からの評価の高いサクラやフジなどの景観を大切にし、池を中心とした既存の資源を活かした景観形成をめざす。

(5) 運営管理の方針

施設利用者の満足度を高め、多様なニーズに応えるため、施設利用者の声を聴取し、反映できるものは積極的に取り入れる。また、中村公園の自然環境を保護し、園内花壇等を保全する

ため、周辺地域との連携、市民・企業等とのパートナーシップを推進し、参加型の運営管理を推進する。

公園内の施設間の連絡を密にし、イベント開催など協力して運営する。なごやかベンチで行った寄附による施設の充実も引き続き検討していく。

【広報】

新たな広報ツールの開発、パブリシティの活用、周辺の施設や学校等との連携を進め、積極的に最新情報を発信する。

(6) 連携・協働の方針

市民団体や企業との連携を進め、地域に根ざした公園を目指した管理運営を行う。現在、中村公園で活動しているボランティア団体のほか、NPO、市民等との協働事業を実施する。

ボランティア活動の継続・充実を図り、公園をボランティアメンバーや市民のコミュニティの場（地域のオアシス）として活用する。

(7) 改修・再整備の方針

公園の安全・魅力向上のために必要な場合は、改修を行う。

(8) 災害対応の方針

「名古屋市地域防災計画」「震災に強いまちづくり方針～名古屋市防災都市づくり計画～」に基づき、広域避難場所としての機能を確保する。

火災、地震、風水害等の防災・災害対応マニュアルをあらかじめ作成し、発災時には、利用者の安全確保・避難誘導に努める。